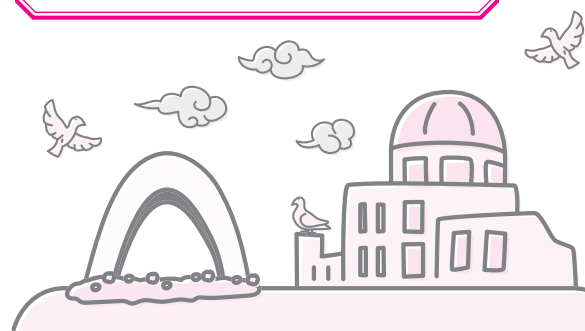


平和への 願いを込めて

～平和都市宣言推進事業「平和の旅」～

8月6日(火)、野々市・布水両中学校から14人の生徒が広島市の平和記念式典に参加し、平和への祈りをささげました。式典前日の5日(月)には、原爆の子の像の前で野々市中学校の橋場瑛太さんが自身の思いをつづった平和宣言文を読み上げ、平和への誓いを新たにするとともに、両中学校の生徒が作成した折り鶴をささげました。参加した生徒の感想を一部紹介します。



平和のために

布水中学校3年 佐藤 はるか

私は今まで原爆の恐ろしさや出来事は知っていたけど、どこかひとごとだと感じていました。だけど、最近ロシアとウクライナの戦争や北朝鮮のミサイル発射など、自分たちの生活に関わってきたり被害にあつた人たちの声をリアルに感じられる出来事が増えたりしていることから、過去の過ちをしっかりと理解したいと思い、平和の旅に参加しました。

今回の旅で一番印象に残っているのは初めて原爆ドームを直接見たことです。今まで写真でしか見たことがなく、ボロボロの建物だなという印象しかありませんでしたが、いざ目の前にしてみるとコンクリートの塊のような建物があり、これが本当に写真で見た建物なのかと思わず疑

いました。ガイドさんの話によると、爆風の熱でとけてしまったそうです。この話を聞いたとき、銅版が溶けるほどの熱を全身に浴びやけどしている状態の人はどれだけ痛い思いやしんどい思いをしたのだろうか、考えるだけでゾッとしました。その後、広島平和記念資料館にも行き、当時の写真や証言、被災した方の遺品などを見ました。写真はどれも痛々しい怪我や火傷をした人たちが写っており、遺品は放射線や熱風の影響でぼろぼろになり、原型をとどめていない物もありました。

私は今回の平和の旅で見た痛々しい被爆者の姿や証言、遺品を見て、このような過ちは二度とあってはいけないし、今すぐ核兵器をなくすことの必要性を感じました。そのために平和の旅で感じたことを友人や家族にも伝えていきたいと思います。

平和の旅を終えて

野々市中学校3年 北川 千隼

「戦争や原爆はとても残酷な核兵器でたくさんの人を苦しめた」

この事実、平和の旅に行く前から私は知っていました。しかし、旅が終わってこの事実の受け止め方が大きく変わった気がします。

当時の状況、それは自分が思っていた以上に恐ろしいものでした。特に強く印象に残ったのは原爆資料館です。資料館では思わず顔を伏せてしまいたくなるような写真や絵がたくさん並んでいて、言葉では表せないほどとても大きな衝撃を受けました。そのとき、私は最初の文章が指す「残酷」という言葉の重さが初めてはつきりと分かった気がしました。写真や絵が次々と目に映りこんで

いくと、「こんなにも痛々しくて胸が痛くなるような『残酷』な光景をもうこれ以上見たくないし、知りたくない」と思うようになってきました。平和の旅が終わった今でも、とても後味が悪くて嫌な気持ちが続いています。しかし、この不快な感情こそが戦争や核兵器の恐ろしさをしっかりと教えてくれたのだと思います。

私はこの戦争や核兵器への恐怖はたくさんの人で共有すべきだと思っています。「起こった事実」をただ知っているだけでは、それらの本当の恐ろしさを知ることができないと思うからです。そのため私は、資料館で見た資料やガイドさんによる話、式典の様子など、旅で知ったことや考えたことをたくさんの人と共有していきたいです。少しでも多くの人が「戦争」について考えられるように。

原爆ドーム



平和記念式典後の献花

